

平成22年5月31日現在

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2006～2009

課題番号：18520168

研究課題名(和文) 16世紀—18世紀イギリスにおける蒐集文化の研究

研究課題名(英文) Culture of Collecting in Sixteenth to Eighteenth Century England

研究代表者

吉原 ゆかり (YOSHIHARA YUKARI)

筑波大学・大学院人文社会科学部研究科・准教授

研究者番号：70249621

研究成果の概要(和文)：16世紀-18世紀イギリスにおける蒐集文化を、学際的・分野横断的に研究した。蒐集行為を、当該時期の科学史、政治史、国際関係や植民地支配(ポストコロニアル研究)と関係づけた。イギリス文化を、ヨーロッパ文化との関係においてのみではなく、アジアや両米大陸、アフリカとの交渉関係において多面的に研究、人文学分野における英米文化・文学研究に新しい地平を切り、従来の文学研究にとどまらない文化研究を達成するにいたった。

研究成果の概要(英文)：This research was aimed at and has successfully achieved an interdisciplinary study on culture of collecting in England (16th-18th century), relating the politics of collecting with that of scientific philosophy, international relations and of colonialism. The researcher succeeded in cultivating a new possibilities for humanity studies, especially in the branch of English Studies, by expanding its scope to include intercultural/trans-border negotiations with other disciplines and cultures.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,300,000	0	1,300,000
2007年度	800,000	240,000	1,040,000
2008年度	600,000	180,000	780,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
総計	3,500,000	660,000	4,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：蒐集文化、イギリス、16世紀—17世紀

## 1. 研究開始当初の背景

この研究課題は、科学研究費補助金若手研究(平成14年度—16年度)「16・17世紀イギリス蒐集文化の研究」(研究代表者：吉原ゆかり、課題番号：14710324)の継続・発展という性格を強く持つ。

科学研究費補助金若手研究で、16・17世紀

イギリス蒐集文化については、相当の資料収集・調査と研究成果を得ることができた。今回申請課題の「16世紀-18世紀イギリスにおける蒐集文化の研究」に向けての準備は、ある程度のところまでは、進んでいた。しかしながら、若手研究では、十分に集積することのできなかつた資料、扱うことのできなかつ

た研究分野も数多い。前述若手研究の当初計画では、予測できなかった人物や事象が、前述若手研究の研究経過で浮上し、それらの人物や事象についての資料は、前述若手研究では十分に集積することができなかった。また、前述若手研究では、16・17世紀を対象としたため、それとの連続性において考察されるべき18世紀についての、資料収集・調査を、本研究の課題として申請した。若手研究「16・17世紀イギリス蒐集文化の研究」の継続・展開という性格を強く持つものであることを鑑みれば、平成17年度に科学研究費補助金に申請すべきものであったが、研究代表者は平成16年度末—17年度末、文部科学省大学改革推進等補助金、海外先進教育研究実践支援プログラム（事業名称：グローバル時代の学際的な文学教育）で、アメリカ合衆国・スタンフォード大学への派遣が決定しており、平成17年度科学研究費補助金申請の資格がなかったため、1年見送り、18年度に申請することにした。平成16年度末—17年度のスタンフォード大学滞在中で、研究代表者がスタンフォード大学の圧倒的な資料にふれ、当該研究課題に関心をもつ研究者との接触をもてたことが、本研究課題執行のうえで大きく役だった。

## 2. 研究の目的

16世紀-18世紀イギリスにおける蒐集文化を、学際的・分野横断的に研究する。文学と文学以外の文書を横断的にあつかい、文学研究から文化研究にその対象を展開させる。蒐集行為を、当該時期の科学史、政治史、国際関係や植民地支配（ポストコロニアル研究）と関係づける。当時イギリスの植民地（あるいは疑似した状況）下にあった、北米、インドはいうまでもなく、当時のイギリスと、東アジアとの関係に注目する。

## 3. 研究の方法

- ① 一次資料の収集、整理、精読
- ② 二次研究資料の収集、整理、分析
- ③ コンピュータ化された資料の収集、整理、活用
- ④ 現地調査。
- ⑤ コレクションに関する理論構築。
- ⑥ 当該テーマに関心を持つ国内外研究者のネットワーク構築。

## 4. 研究成果

各年度別に記述

18年度 活字資料の収集・整理（一次資料）、とくに、18世紀イギリスにおける蒐集文化に関する資料収集・整理に力をそそいだ。7月オーストラリアで開催された国際シェイクスピア学会で関連主題について口頭発表を行うとともに、本研究課題に関する国際的

研究ネットワークの基礎を固めた。国内在住の研究者で、当該課題、とくにそれと旅行記の関連に関心を持つ研究者と意見交換を行った。蒐集文化が他文化地域との交流と深く関係するものであるため、旅行記研究と当該課題を連結させることが、必須の課題であることがあきらかになった。16世紀については、イギリス自国の過去の文物蒐集と国家意識の形成、17世紀については共和革命期を大陸で過ごした人物たち（とくにアランデル公爵周辺の人物）が蒐集行為に果たした役割、18世紀については、コーヒー・ハウス文化と蒐集行為の関連の研究に重点をおいた。従来、蒐集文化研究は、文化的・政治的に優位にたつイギリスが、他文化の文化蒐集・収奪を行ったものとされる傾向があった。本研究により、西洋と非西洋を単純な二項対立の図式でとらえる枠組みでは、とらえきれない問題が数多いことがあきらかになった。たとえば、18世紀当時において、政治的・文化的にイギリスよりはるかに優位であった、オスマン・トルコや中国で、イギリス人が行った文化蒐集を、単純な二項対立の図式で理解することは難しい。蒐集文化研究には、より多様で柔軟な思考方法を必要とする。とくに、中国や日本などの東アジア地域とイギリスの文化交流は近年、従来の研究とは様相を新たにした目覚ましい進展をとげており、本研究をそのような学問的発展と関連づけることができたことは、本年度の大きな成果である。また、大学院生教育指導を兼ねて、大学院生を情報・資料整理に積極的に雇用し、大学院生教育の面からも、当該課題執行のうえからも、大きな成果を得た。

19年度 イギリス関係では、手薄であった18世紀関係の資料収集にとくに力を注ぎ、16世紀—18世紀蒐集文化の研究を体系的に行う基盤を築いた。すでに収集していた電子資料（一次資料・研究資料）を活用するため、コンピュータ整備を行った。イギリスとヨーロッパ諸国の文化交流とコレクション・ネットワークばかりではなく、イギリスとアジアとの文化交流とそこから生じて来たコレクションまで視野に収め、一次資料を収集、整理した。ウィーン（オーストリア）、ロンドン（連合王国）で資料調査を行った。その結果、以下の知見を得た。①16世紀—18世紀という三世紀全体を見渡した、蒐集文化の研究（Arthur MacGregor, *Curiosity and Enlightenment* (2007) など）が、英語圏で活性化しており、本研究もその潮流に貢献大である。②文学ばかりではなく、外交資料、ジャーナリズム的資料を視野に収める本研究では、電子資料が極めて有用であり、その収集にあたった本研究により、必ずしもイギリス（あるいはアメリカ）に在住せずとも、当該課題を研究するにたる基盤を築いた。③蒐集

文化においてはむしろ後発国であるイギリスの16世紀—18世紀と、先発国であるオーストリアやイタリアの蒐集文化とを比較対照することにより、汎ヨーロッパ的蒐集文化の研究に、本研究を拡大していく方向を見出した。

20年度 研究課題を時代的にも地理的にもテーマ的にも大きく展開させていく契機をつかむことができた。これは8月20日、筑波大学で開催した研究集会がもたらしたものである。荒木正純（白百合女子大学）、箭川修（東北学院大学）、吉田直希（小樽商科大学）川田潤（福島大学）、梶（川田）理和子（山形県立保健医療大学）、霧島慶邦（福島大学）、ロバート・ティアニー（イリノイ大学、筑波大学外国人特別研究員）および都内大学院、筑波大学大学院で学ぶ学生を集めて、研究集会を行った。吉原は『好奇心の文化史』として発表を行った。当日の討議から、本研究課題を、以下のような方向性へ展開させていく可能性が大であることが確認された。1 動物誌、科学誌、医学史研究 2 パトロン制度研究 3 ツーリズムの誕生 4 女性コレクター 5 ヨーロッパ・アフリカ交易 6 初期エスノロジー 7 空想旅行記 8 ヨーロッパ・アジア文化交流 9 大衆むけ見世物文化。蒐集文化研究は、16世紀～18世紀のヨーロッパ文化地図を理解するために必須のものであるのみならず、ヨーロッパとアフリカやアジアとの文化交流や、文学ジャンルの発生、女性文化、大衆文化を、グローバルかつ学際的な視点から理解するためのもの、大きな重要性をもっていることが明らかになった。

21年度 研究課題を時代的、地理的、テーマ的に格段に拡大することができた。研究期間を通じた研究成果の集大成として、研究者どうしのネットワークを最大に活用し、東北英文学会（日本英文学会東北支部）第64回大会（12月5日）で、イギリス文学部門シンポジウム「英文学におけるジェンダー/ジャンル」を企画、パネリストとして発表を行った（司会：吉田直希、パネリスト：仙葉豊、大田信良、吉原ゆかり）。18世紀ロンドン都市文化を専門とする吉田・仙葉、ポストモダン文化論を専門とする大田と、半年以上にわたって協議を重ね、本研究代表者は、「好事家たちの身体」と題して発表を行い、本研究課題の集大成とするにたる成果を得た。

今後のさらなる発展へと向けて、当該テーマに関心をもつ研究者と、将来の共同研究課題についての素案を創案した。具体的には、2010年度東北英文学会で、本研究に関連しそれを発展させたテーマで、シンポジウムが開催予定されており、吉原はその準備段階から関与することとなった。

研究年度全体を通して

- ① これまでになかった規模をもって、一次資料の収集、整理、精読することができた。
- ② 学術的に急速に発展しつつある当該研究課題に関連した二次研究資料を、組織的・計画的に収集整理し、活用した。
- ③ コンピューター化された資料を収集、整理し、今後の研究の基礎を固めた。
- ④ 現地調査を行い、文字やコンピュータばかりでは達成できない、具体的イメージを伴った研究を行うことができた。
- ⑤ コレクションに関する理論構築を試み、当該研究テーマを、他研究分野（芸術史、エスノロジー、異文化交渉史、ポストコロニアル理論など）に接続、学際的な知見を得た。
- ⑥ 当該テーマに関心を持つ国内外研究者のネットワーク構築した。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

① Yukari Yoshihara, "Popular Shakespeare in Japan", *Shakespeare Survey*, 60 巻、2007年、pp.130-40、査読あり

〔学会発表〕（計7件）

① Yukari Yoshihara, "Un-Shakespearizing Shakespeare and Un-Japanizing Manga", Association for Asian Studies, 2010年3月28日, Philadelphia, Downtown Marriot (アメリカ)

② 吉原 ゆかり 「好事家たちの身体」東北英文学会（日本英文学会東北支部）第64回大会、2009年12月5日、秋田カレッジプラザ

③ Yukari Yoshihara, "Un-Shakespearizing' Shakespeare", International Conference on 'Shakespeare in Culture,' 2009年11月26日、国立台北大学（台湾）

④ Yukari Yoshihara, "Which is global, Shakespeare or Manga?" Reception and transformation of American / English Literature in Asia、国立台湾大学（台湾）、2008年9月24日

⑤ 吉原 ゆかり 「好奇心の文化史」16世紀—18世紀イギリスにおける蒐集文化の研究研究集会、2008年8月20日、筑波大学

⑥ Yukari Yoshihara, "Is this Shakespeare?" , *Renderings: Shakespeare across Continents* 於：ノッティンガム大学寧波校（中国）、2008年9月11日

⑦ Yukari Yoshihara, “Shakespeare Localised /Japanised in the Age of Globalisation”, VII World Shakespeare Congress, Brisbane, Australia, July 14, 2006

[図書] (計4件)

① Yukari Yoshihara, “Is This Shakespeare? Inoue Hidenori’s Adaptations of Shakespeare.” Poonam Trivedi and Minami Ryuta (eds.), *Re-playig Shakespeare in Asia*. 2010. 総 344 ページ、pp. 141-56 所収.

② Yukari Yoshihara, “Kawakami Otojiro’s Trip to the West and Taiwan at the Turn of the Twentieth Century”, S. Clark and P. Smerthurst (eds.) *Asian Crossings*. Hong Kong UP, 2008, 総276ページ、pp. 149-162所収。

③ 吉原ゆかり 「英語で書かれた文学のインターカルチュラルな〈移動〉」筑波大学文化批評研究会編『テキストたちの旅程——移動と変容の中の文学』花書房、総 329 ページ、14-28 頁所収、2008 年

④ Yukari Yoshihara, “The Past, the Present and the Future of the project, ‘English Studies in Asia’ (introduction)” *English Studies in Asia*, Malaysia: Silverfish Books, 総 251pp. 9-23、2007 年

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

吉原 ゆかり (YOSHIHARA YUKARI)

筑波大学・大学院人文社会科学研究所・准教授

研究者番号：70249621